

「福島原発周辺の鉄道網とまちの被災・復旧状況」

～「三陸沿岸の鉄道網の復興」と「福島原発被害」への応援活動報告（2011.7.25.）～
今瀬政司（NPO法人市民活動情報センター 代表理事）

ホームページ「東日本大震災の災害と応援活動の情報」(随時更新) <http://www1m.mesh.ne.jp/~sic/>

福島原発周辺の被災・被曝現場を歩き、話を伺って、よそ者（風の人）として思うこと

- ・巨大地震、巨大津波、原発危機の三重苦を抱える、福島原発周辺の広野町（緊急時避難準備区域に指定、全町民自主避難）といわき市のまちと鉄道（駅舎・線路）をお邪魔した。
- ・原発危機で避難して人影のない鉄道駅舎（電車不通）閉鎖した店舗、移転した町役場、車の殆ど走らない道路。まち中には、警察や原発関係者などだけの姿。動くものが殆どないまちに漂う、とてつもなく重たい空気。
- ・福島原発周辺の不通になっているJR常磐線の線路の復旧工事をしている人たち。誇らしげな顔をして、復旧工事の作業方法などを教えてくれた若者。
- ・Jヴィレッジ（警戒区域（福島第一原発から半径20km圏内（楢葉町））にある原発作業員の前線基地）の南側の道路（原発から約21km辺り）で、信号機代わりをしている、真っ黒に日焼けして、しわが深く、やさしそうな顔をしたおっちゃんの姿を思い出すと、涙が出てくる。
- ・人影のないJR未続駅（すえつぎ駅）近くの道端に咲く花を切り取って、お墓に行くのか、家に帰るのか、一人で歩くおばあちゃん。長袖に大きな帽子をかぶっている、さみしそうで、でも何か強さを感じるお姿。
- ・福島第一原発から20～30km圏内に初めて立った時、怖さと共に、悲しさを感じ、この被曝したまちの「現実」を踏まえずして、今後の原発・エネルギー政策、まちの政策、日本や世界の政策はあってはならないと強く思った。運を天に任せる代償は、やはり大きいと感じる。



Jヴィレッジの南側（福島第一原発から21km 辺り）の人影のない閉鎖店舗
【広野町】
（撮影：今瀬政司、2011年7月25日）



JR常磐線の広野駅・未続駅間（不通）の線路の復旧工事【広野町・いわき市】
（撮影：今瀬政司、2011年7月25日）



ＪＲ常磐線の末続駅(すえつぎ駅) (不通)
 <左写真>駅員も利用者もない、電車も通らない駅のホーム
 <右写真>不通で「調整中」の常磐線時刻表 【いわき市】
 (撮影：今瀬政司、2011年7月25日)



ＪＲ常磐線の末続駅(すえつぎ駅) (不通)
 駅舎内に飾られた「末続駅の歩み」と「末続駅舎新設風景写真」
 (駅名由来：
扇状地の末端に開けた集落のそのまた先を開拓したことを表す地名です。)
 【いわき市】
 (撮影：今瀬政司、2011年7月25日)



移転して人影の殆どない広野町役場 (緊急時避難準備区域に指定、全町民自主避難)
 【広野町】(撮影：今瀬政司、2011年7月25日)



ＪＲ常磐線の久ノ浜駅 (久ノ浜駅から東側・福島原発方面は不通)【いわき市】
 (撮影：今瀬政司、2011年7月25日)